

● 2014年（平成26年）4～6月

1 社会・治安情勢

（1）ヨルダン空軍機による不審車両破壊（4月17日付ヨルダン・タイムズ他）
ア 4月16日午前10時30分頃、ヨルダン空軍機がヨルダン・シリア国境（ルワイシード付近）において、シリア側からヨルダン側への侵入を試みた土色に塗装した武装車両数台に対し、警告及び威嚇射撃を行ったが、武装車両はヨルダン空軍の警告を無視したため、空軍機が武装車両を破壊した。

イ シリア国営通信ウェブサイトは、「シリア政府軍に関係する車両、武装車両はヨルダン国境に向けて移動していない。したがって、ヨルダン空軍が攻撃した対象は、シリア政府軍に所属しているものではない。」との談話を発表し、シリア政府軍の関与を否定した。

（2）密入国

ア 5月7日未明、シリア国境においてヨルダンへの密入国を試みた10名のヨルダン人ジハーディストとヨルダン軍との間で銃撃戦が発生し、ジハーディスト2名が負傷した。

匿名のジハーディスト関係者によれば、同ヨルダン人10名はヨルダンからシリアに入国した後、ヌスラ戦線に加わりシリア南部で戦闘に参加していたが、戦闘で負傷したためヨルダン国内で治療を受けるために密入国を試みたものである（5月8日付当地主要各紙）。

イ 5月9日未明、シリア・ヨルダン国境において、度重なる警告を無視してシリアへの入国を試みたジハーディスト1名をヨルダン軍が殺害した。

ジハーディスト関係者によれば、殺害された人物はサウジアラビア国籍のモハメド・アブ・バカルであり、ヌスラ戦線に採用されシリアで戦闘に参加するため密入国を試みたものである（5月11日付ヨルダン・タイムズ紙）。

ウ 5月10日、ヨルダン空軍のヘリコプターが、大量の密輸品を積載しシリアからヨルダンへ密入国を試みた2台の不審車両を破壊した（5月11日付ヨルダン・タイムズ紙）。

（3）米国要人に対する襲撃（5月25日付ガッド紙）

ア 5月24日付の当地米国大使館の発表によれば、5月20日に何者かによりヨルダン・イラク国境の西方を走行していた米国要人のグループの車両が襲撃されるという事案が発生した。ガッド紙が当地米国大使館に照会したところ、同襲撃は犯罪集団によるものであり、米国の要人らは特に被害はなく無事であるとのことである。

イ 当地米国大使館は、ヨルダン在住の米国人に対してマフラク県にある国道10号線については砂漠道であることから車両が故障しやすい上に治安上のリ

スクが高いとして使用しないように勧告を行っている。

(3) MERSコロナウイルス感染

ア 4月22日、保健省は、「25歳のサウジアラビア人が、ヨルダン国内の私立病院に入院し、同ウイルスに感染していると診断された。同人の容体は安定しており、人工呼吸器を使用する必要はない。」と発表した（4月23日付ヨルダン・タイムズ紙）。

イ 私立病院の看護師（28歳、男性）が、5月10日にMERSコロナウイルスに感染したと診断され、11日に死亡した。同人は、他のMERSコロナウイルス感染者に接触していた。ヨルダンにおけるMERSコロナウイルス感染例は本件が9人目（うち死亡は5人（3人は医療関係者））である。保健省は、今回の死亡者が28歳の男性であったため、年齢、既往歴の有無にかかわらず警戒するよう国民に呼びかけている（5月12日付ヨルダン・タイムズ紙）。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人の被害

ア 4月、アカバにおいて、午後8時頃、在留邦人の女性2名が路上を歩いていたところ、後ろから4、5人の青年が近づいてきて、そのうちの1名が後ろから女性1名の身体を触った。それを止めようとしたもう一人の女性が同一人物に棍棒のようなもので手をたたかれた。

イ 5月、アンマンのダウンタウンにおいて、午後9時半頃、邦人女性旅行者が、外出から滞在中のリビエラ・ホテル（RIVIERA HOTEL）に戻り、自分の部屋に入ったところ、部屋の電気が消えた。受付に連絡したところ、受付担当者（エジプト人）が部屋に来て、部屋の奥のベッドの横のコンセント付近を修理し始めた。求めに応じ、邦人女性が携帯電話で修理箇所を照らしていたところ、受付担当者が女性の身体を触ったり、頭、首、肩にキスをした後、女性をベッドに押し倒し、強姦しようとしたが、抵抗の結果、幸い未遂に終わった。女性は、抵抗した際に首に引掻傷を負った。加害者は、警察に逮捕された。

(2) マアーンにおける発砲事案（4月27日付ヨルダン・タイムズ）

警察が、4月20日に裁判所の警備を行っていた警察官に対して発砲した容疑者を追跡中、1名の市民を射殺したことに怒った群衆が、4月22日、タイヤを燃やして道路を封鎖したり、商店や銀行を襲った。

マジャリ内務大臣は、「治安当局が追跡しているのは19人の容疑者のみであり、国家はこれらの無法者から秩序とマアーン市民を守る必要がある。」と述べた。

3 テロ・爆弾事件発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

ヨルダンの渡航情報（危険情報）の一部引き上げ（6月27日付）

（1）シリア国境地帯

「渡航の是非を検討してください。」（継続）

シリア国内においてシリア政府軍と反体制派武装勢力との間で激しい戦闘が継続しており、ヨルダン国内に多数のシリア避難民が流入しています。ヨルダンとの国境付近でも戦闘が発生しており、砲弾等がヨルダン側に着弾しヨルダン人が負傷する事案も発生しています。また、シリアからヨルダンに不法に侵入しようとした武装車両等をヨルダン空軍機や空軍ヘリコプターが破壊したり、武装勢力とヨルダン国境警備隊との間で銃撃戦が発生し、死傷者が出ています。ヨルダン治安当局はシリア国境地帯における警戒を高いレベルに引き上げて対応していますが、シリア国境地帯における治安が更に悪化する可能性は排除できません。

つきましては、同地域に渡航・滞在を予定されている方は、不要不急の渡航は控え、渡航すべきか否かは、渡航目的の緊急性、とりうる安全対策等に応じて検討を行った上で慎重に判断し、渡航・滞在する場合には、現地の最新の治安情報の入手に努め、周囲に警戒を払う等、十分な安全対策を講じてください。

（2）イラク国境地帯

「渡航の是非を検討してください。」（引き上げ）

イラク国内では、イスラム過激派武装組織「イラク・レバントのイスラム国（ISIL）」を中心とする武装勢力とイラク軍・治安当局との間で激しい戦闘が続いています。ヨルダン治安当局は、イラク国境地帯における警戒を高いレベルに引き上げて対応していますが、戦闘の影響がイラクとヨルダンの国境周辺にまで拡大することが懸念されます。

つきましては、同地域の危険情報を「十分注意してください。」から「渡航の是非を検討してください。」に引き上げます。同地域に渡航・滞在を予定されている方は、不要不急の渡航は控え、渡航すべきか否かは、渡航目的の緊急性、とりうる安全対策等に応じて検討を行った上で慎重に判断し、渡航・滞在する場合には、現地の最新の治安情報の入手に努め、周囲に警戒を払う等、十分な安全対策を講じてください。

（3）上記以外の地域

「十分注意してください。」（継続）

（了）